

大阪大（大阪府吹田市、平野俊夫総長）は3月、東日本大震災の被災地の野田村に、大学院生を対象としたサテライト施設を開設する。「多文化共生社会」をテーマにした5年間の同大のプログラムの一環で、学生が同村を拠点に一定期間滞在しながら現地での研修を実施する。村民との相互交流が大きな目的で、地域復興の力として期待される。

サテライト施設開設 人間科学、工学、医学を
は、震災直後から同村で 学ぶ大学院生らが参加す
活動するボランティアグ る。文部科学省の「博士
ループ」チーム北リアス」 課程教育リीडィングプ 義室のほか、学生たちが

や都市計画、労働経済学などの講義を予定。村民も聴講を可能とする。教員や学生による地元の子どもたちへの教育活動や漁業、農業者ら村民からの講義なども計画しており、村民も交えた学びの場とする方針だ。

復興のために何ができる

5年間
「共生社会」テーマに

に同大教授や学生が参加「ログラム」を受けた事業滞在でき
していたことがきっかけで、2013年度は学生保する。

もサテライト施設を同時や村を元気づける。学生設置。大阪と同村、イン時代だけでなく、長く拠

同大の未来共生イノベ
間滞在する予定だ。

具体的な活動は今後決
ドネシアをインターネッ
点として活動してもらっ
るが、専門家を招いた
トや衛星回線をつないだ
ばさらに復興や地域活性

して、国際公共政策学や、チーム北リアスの現まえたディスカッション 3月11日には開設記念る

$$z_0$$